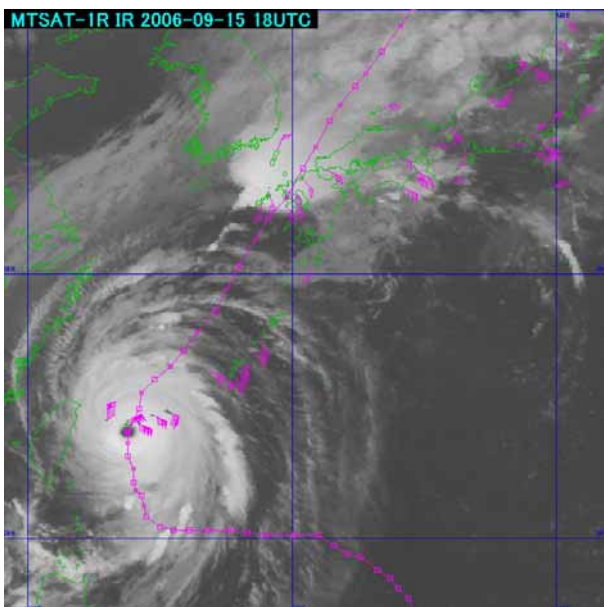


# 「SATAID を用いた雲画像解析」( 実習 )

西村 修司 ( 気象庁予報部予報課 )

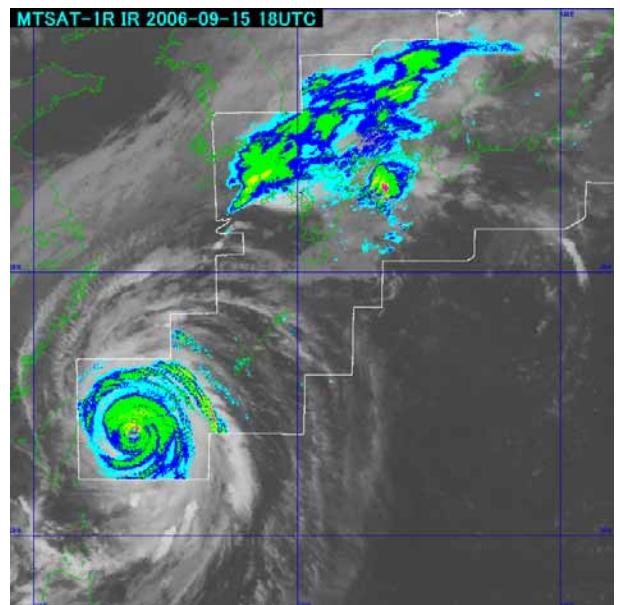
SATAID( Satellite Animation and Interactive Diagnosis)は、気象衛星「ひまわり」の衛星雲画像の動画をパーソナルコンピュータで行うために気象衛星センターで開発されたプログラムで、雲画像の動画や衛星画種の切り替え表示ができるとともに、各種観測データ(地上・海上・高層実況、レーダー、アメダス、ウインドプロファイラー)や数値予報資料(GSM、RSM、MSM)を雲画像に重ね合わせて解析できるすぐれたソフトウェアである。SATAIDはこのすぐれた実況監視機能により、気象庁の台風解析業務や実況監視作業など予報現業で利用されているとともに、研修教材としても使われている。また、各種数値予報資料等の加工(断面図表示や時系列表示など)や図表等の添付、雲画像への図や文字の書き込みなどが簡単にできることから、気象衛星センターが発行している雲解析事例集の事例解析ツールとしても利用されている。



台風 0613 号の赤外画像とアメダス風速(5m/s以上)及びベストトラックの合成図(2006年9月16日午前3時)

SATAID で利用する雲画像データは、現在のところオンライン環境では取得できないが、気象衛星センターが発行している衛星気象月報から、赤外1画像・可視画像・水蒸気画像・赤外4画像が入手でき、また各種観測データは、気象庁月報・気象庁天気図・解析雨量年報等市販されているCD-ROMから入手できるため、個人でも過去事例の解析が可能となっている。

今年の夏季大学の実習では、これらSATAIDの豊富な機能の中から、事例解析機能と学習教材機能を効果的に利用することを目的として、前半では「SATAIDの基本操作の習熟」、「SATAIDを使った雲画像解析の基礎」(赤外画像や可視画像の効果的な利用)、「SATAIDを使った事例解析の紹介」(各種観測データやGPVデータの重ね合わせによる低気圧や前線などの構造把握)を行い、後半では入手可能な各種データ利用して実際に解析事例を作成する実習を行う。



台風 0613 号の赤外画像と解析雨量の合成図(2006年9月16日午前3時)